

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科		
科目名称 [英語名称]	生涯学習概論 [Lifelong Learning]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750054	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	2年次
教員氏名	植村 秀人			学位授与の方針 との関連	DP1(1), DP3(2)(4)		
授業概要	本講義は、生涯学習に関する科目である。内容としては、生涯学習の歴史的意義の理解、行政の体制、学習者の理解や支援、生涯学習施設の把握及び生涯学習施設と学校の連携について取り扱う。本授業では、生涯学習の意義や行政施策の理解をするとともに、学習者の学習課題やその支援の理解、生涯学習施設(公民館や図書館・博物館)の歴史的展開や役割の理解、生涯学習と学校教育の関わりや生涯学習施設と学校教育の連携についての理解が得られることを目標とする。環境園芸学科の学芸員資格取得希望者と子ども教育学科の小学校教員・幼稚園教員・保育士資格取得希望者が合同で受講する科目であり、小学校・保育園・幼稚園と社会教育との連携についても踏まえた内容としている。						
関連する科目	環境園芸学科 学芸員課程科目・教職概論・教育学概論・教育社会学・特別活動論など 子ども教育学科 キャリアデザイン・キャリア入門・キャリア教育演習・スポーツと健康など 人間発達概論・教育原理・教育と社会・教職概論・特別活動論・子どもと野外レクリエーション・環境教育論など						
授業の進め方と方法	本授業は、講義形式で実施する。一部の回では、受講者をグループ分けし、グループディスカッションや課題発表を予定している。これにより受講生が主体的に学ぶようにする。						
授業計画	<p>第1回 はじめに～生涯学習社会への招待～ 本科目の概要などについて知り、学習の大まかな道筋を理解し学習意欲を高める。生涯学習支援者や実践者として必要な知識を学ぶ。</p> <p>第2回 教育とは何か?①～子どもの発見と発達段階～</p> <p>第3回 教育とは何か?②～教育の歴史展開～ 教育のありようについて基本的理解を行う。</p> <p>第4回 生涯学習と社会教育①～社会教育の概要～</p> <p>第5回 生涯学習と社会教育②～生涯学習論の登場～</p> <p>第6回 生涯学習と社会教育③～社会における生涯を通じた学習～ 生涯学習概念の概要、生涯学習概念の登場の背景理解、社会教育概念と生涯学習概念の関連性について理解する。</p> <p>第7回 生涯学習と学校教育①～学校教育との連携～</p> <p>第8回 生涯学習の学校教育②～学校教育への応用の検討～ 生涯学習概念と学校教育の関連性、学者融合や連携について知り考える。</p> <p>第9回 生涯学習の内容①～内容と方法～</p> <p>第10回 生涯学習の内容②～社会教育施設と職員～</p> <p>第11回 生涯学習の内容③～対象者の違い～</p> <p>第12回 生涯学習の内容④～生涯学習の計画を考える～ 生涯学習の内容・支援する施設や職員のありようを理解し、生涯学習支援者や実践者として必要な知識を学び、実際に教育実践を計画する。</p> <p>第13回 生涯学習の課題①～地域課題解決～</p> <p>第14回 生涯学習の課題②～社会変化・行政改革と生涯学習～ 生涯学習における各種課題について学び、生涯学習支援者や実践者として求められる姿勢を考える。</p> <p>第15回 おわりに～生涯学習の実践者へ～ 本科目を受講したうえで、生涯学習支援者や実践者となるように考える。</p>						
授業の到達目標	<p>両学科共通の目標として以下の3点について一定程度得られることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生涯学習の意義や行政施策の理解</li> <li>○博物館・図書館・公民館など生涯学習施設の歴史的展開や役割の理解</li> <li>○生涯学習と学校教育の関わりや生涯学習施設と学校教育の連携についての理解</li> </ul> <p>また、両学科については、学科の特徴から以下の点についてそれぞれ到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○環境園芸学科生は、学芸員として必要な学習者の学習課題やその支援の理解している。</li> <li>○子ども教育学科生は、教師や保育士として生涯学習機関・施設との連携協力についての理解している。</li> </ul>						
授業時間外の学修	<p>予習を行うこと(各1時間)</p> <p>復習を行うこと(各1時間)</p> <p>課題に取り組むこと(15時間)</p> <p>レポートに取り組むこと(15時間)</p>						
課題に対する フィードバック	感想文・レポートについては、返却する。この際に評価のポイントなどを簡潔に説明する。グループワークは、上記返却時に評価のポイントを説明する。			評価方法	<p>授業ごとの感想文 45点</p> <p>提出課題 20点</p> <p>グループワーク 15点</p> <p>レポート 20点</p>		
テキスト	配付資料						
参考書	佐藤晴雄 生涯学習概論 田中克佳 教育史 加野芳正 新しい時代の教育社会学 木村元 日本の学校受容  片桐芳雄・木村元 教育から見る日本の社会と歴史						
備考							